

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	社会福祉法人パートナー グループホーム ハートの家 貳番館(第2ユニット)	評価実施年月日	平成19年11月20日
評価実施構成員氏名	猪股佳和・星野文子・小野寺洋子・木村耕治 栗林敏文・藤井梨恵・川村めぐみ・高玉加奈子		
記録者氏名	猪股佳和	記録年月日	平成19年11月24日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	<input type="checkbox"/> 各個人(入居者様)を尊重しつつ協同生活や地域の方との関わりを持ちながら理念に基づいた生活が出来るよう心掛けている。	○	<input type="checkbox"/> 地域の中でサービスとしての部分を理念に盛り込んでいきたい。
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 理念に基づく生活を送るため見えやすい場所に掲示している。		<input type="checkbox"/> 施設内入り口に理念を掲げている。
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 入居時に家族の方への説明のみで継続的な理解方法は取り組んでいない。 <input type="checkbox"/> 運営推進会議時に地域に向けて理念を発信しているが十分ではない。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	<input type="checkbox"/> 町内会に入会し行事には案内状等を配布し日常的な付き合いが出来るよう努めている。 <input type="checkbox"/> 散歩やゴミ捨て等の外出時には必ずこちらから挨拶するよう心掛けている。	○	<input type="checkbox"/> 回覧板をまわす、夏祭りには隣近所への挨拶回りは当日にも行なう。
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	<input type="checkbox"/> 地域行事に参加・見学を心掛けている。 <input type="checkbox"/> 町内会に資源ごみを出すように心掛けている。	○	<input type="checkbox"/> ゴミ捨ても町内会の方々と同様にゴミ出しをしその際挨拶を交わす。 <input type="checkbox"/> 資源ごみ(ダンボール・新聞紙等)を必ず出している。 <input type="checkbox"/> 地域のボランティア活動等に積極的に参加していきたい。
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議等で話し合っているが今のところ取り組みはない。	○	<input type="checkbox"/> 運営推進会議を中心に今後取り組みについて具体化させていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>○前回の自己評価及び外部評価を見やすい所に掲示。</p>	○	<p>○自己評価には全職員が関り意義を理解することに努めている。</p> <p>○外部評価の結果も職員全員で確認する場をもっていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>○運営推進会議では理念・サービス内容を報告し地域や町内会での活動等聞きながら意見交換しサービス向上に活かしている。</p>	○	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>○必要時の連絡に留まっている。(電話・メール等で)</p>	○	<p>○どのような関りを持つことによってサービスの質の向上に繋がるかを考えていくことが今後の課題。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>○研修会等への参加により学ぶ機会を確保している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>○虐待予防の研修会に参加する機会を持っている。</p>		<p>○日頃より行動の虐待(抑制)のみならず言葉による虐待(抑制)に関しても意見交換している。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>○入居者様と御家族が不満や要望を言える場所作りを心掛けている。</p>	<p>○</p>	<p>○不満・苦情等の意見箱を入居者様と御家族の方に見えやすい場所に設置している。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>○健康状態は定期受診及び体調不良時受診等を御家族来訪時報告。 ○金銭管理はグループホームで行なっているが物品購入の際に必要なに応じて御家族に連絡している。</p>	<p>○</p>	<p>○遠方の御家族や面会がなかなか出来ない御家族に対して月に一度程度近況報告の手紙を送るなど工夫していきたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>○意見箱や苦情ボックスという取り組みを行なっている。 ○運営推進会議で参加御家族から幅広く意見を聞き取り入れるようにしている。 ○御家族来訪時に要望や意見を聞く機会を設けている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>○ミーティング等の時に意見を聞く機会を設けている。意見は管理者会議等の場で運営者に伝えるようにしている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>○必要時に勤務の調整を行い入居者様の状況の変化に対応できるようにしている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>○離職した際には入居者様へのダメージを最小限に抑えるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>○研修会への参加を積極的に取り入れている。</p> <p>○法人内の研修も3～4ヶ月に1回開催している。</p>	○	○職員の段階に応じた研修(新人研修・専門研修等)への参加を計画したい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>○他事業所との交流は管理者研修やケアマネ研修等限られた機会にしかない。</p> <p>○同一法人内での交流は積極的に行なっている。</p>	○	○サービスの質の向上のためにも他事業者との交流は積極的に行っていきたい。又、地域包括支援センターを中心とした地域のネットワーク作りを期待したい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○スタッフルームの確保やストレス発散のための環境を整えている。		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	○研修への参加や資格取得な支援を行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	○本人が困ったり、不安なこと、求めている場合にはなるべく早く対応するよう心掛けている。	○	○その都度、良く話を聞いたり、時間を作る等して対応している。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	○御家族の面会時等に声掛けし相談できる機会を持つようにしている。	○	○本人が不安にならないように御家族に声掛けする場合は配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	○相談内容により改善に向けた支援の提案又は他のサービス利用も対応。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	○生活歴や御家族からの情報を得てその人らしい暮らしを支えるよう心掛けている。	○	○個別の対応・援助をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	○出来るだけ話を聞くよう心掛け入居者様と共に楽しく過ごせるよう対応している。 ○畑仕事や調理等の場面では入居者様に指導して頂く等支えあう関係を築けるように努めている。		○散歩や畑の草取り等職員と一緒に楽しんでいる。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○施設行事に参加していただき一緒に楽しく過ごせるよう心掛けている。	○	○夏祭り・温泉旅行・クリスマス会等御家族が参加しやすい時期に職員とコミュニケーションをとるよう心掛けたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	○これまでの関係を把握し関係の継続や向上を図っていけるよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	○御家族のみならず友人や知人の来訪や電話連絡等行なっている。 ○馴染みの場所への外出等も御家族の協力を得ながら行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	○入居者様それぞれの個性に合わせて出来ることを声掛けしている。	○	○入居者様同士でのコミュニティの形成がなされていけるよう支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	○サービス利用が終了した者がいないため対応はない。	○	○サービス利用終了者が出た場合においても必要に応じて関係を断ち切らないよう支援する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○ひとりひとりの思いや暮らし方の希望等は本人の訴え時に迅速に対応している。	○	○ひとりひとりの話をゆっくり聞ける時間の確保は必要。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○馴染みの暮らしが活かせるよう生まれてからのこれまでの生活歴を御家族からの情報伝達を行なっている。	○	○センター方式の活用を強化。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○個別記録・介護計画ひとりひとりの変化を記録し申し送り、情報伝達を行なっている。		○体調の不安定な入居者様は特に別資料を作成し特に注意をして申し送っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○月に1回検討会議を行い職員からも意見を取り入れるかたちで介護計画を作成している。		○チームで介護計画に携わることで課題やケア内容の理解がしやすく日々のケアに取り入れやすい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○毎月一度見直しを行なっている。 ○変化が生じた場合はその都度ケアマネ(計画作成者)が中心となり対応している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○毎日介護計画が実践されているか確かめ記録に残している。		○ニーズとサービス内容を入居者様別日誌に記録し日々実践しているかをチェックしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	○系列施設(グループホーム・有料老人ホーム)との交流により実施している。		○系列施設の行事参加や入居相談等を行なっている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	○ボランティア・消防等と協力している。		○週1回社交ダンス、敬老会等の行事にはボランティアを活用している。 ○避難訓練や普通救命講習等で消防との連携を図っている。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。			
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	○運営推進会議をとおして地域包括支援センターとの関りはあるがケアマネジメント等で協働はしていない。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○かかりつけ医と連絡をとり急変時や緊急時にもよく相談して対応している。		○将来的には往診等も視野に入れた関りをもっていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○かかりつけ医を中心に必要に応じて専門医の紹介や治療を行なっている。		○認知度や症状により治療方法を考慮してもらっている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○協力病院の看護職には認知症をよく理解してもらった上で健康管理に協力してもらっている。		○定期受診時や治療中等も協力してもらっている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	○かかりつけ医からの紹介等により病院関係者との情報交換を行なっている。		○病院⇄施設の情報交換を行い早期退院に向けた取り組みを行なっている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	○利用契約時に重度化や終末期に向けた対応を定めている。 ○重度化がすすんできた時には御家族やかかりつけ医等と話し合い、方針を共有できるよう努めている。	○	○終末期に向けた取り組み(職員の知識・技術向上、御家族の協力、往診・訪問看護等)をすすめていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○終末期に向けた検討や準備をあまり行なえていない。	○	○終末期に向けた取り組み(職員の知識・技術向上、御家族の協力、往診・訪問看護等)をすすめていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>○十分な情報交換や情報の整理を行いダメージを最小限に防げるように努めている。必要に応じ御家族の協力を得る。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>○人格を尊重しプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応は気をつけている。</p>	○	<p>○援助する側・される側の立場を考えて職員間で話し合っている。今後も強化していきたい。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>○自ら希望を訴えられる入居者様はもちろん訴えられない入居者様に対しても雰囲気作りをしている。</p>	○	<p>○バーバルコミュニケーションのみではなくノンバーバルなコミュニケーションを活用できるよう努めていく。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>○入居者様のリズムや得意分野を活かした生活を心掛けているがまだ十分ではない。</p>	○	<p>○入居者様ひとりひとりがどのように過ごしたいか、何が希望なのかを的確に判断できるよう努めていき支援に繋げたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>○個性を大切におしゃれや身だしなみを整えている。</p>	○	<p>○理美容は月1度はもとより入居者様の希望や行事に合わせて行なっている。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>○職員と入居者様が同じ食事を一緒に食べたり準備や片付けを行なっている。</p>	○	<p>○十分とはいえないので今後強化していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	○飲み物に関してはひとりひとりの状況に合わせた支援をしている。	○	○飲酒については行事の時等は希望者は楽しんでいる。 ○喫煙者は現在いないが希望者には対応できる。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	○排泄のパターンに応じプライバシーの配慮を考え支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	○基本的な入浴日や時間帯は決まっているが可能な限り希望に沿えるよう努めている。 ○入浴時間は体調や希望に合わせて行なっている。 ○夜間入浴を検討する必要があるが体制が整っていない。	○	○夜間入浴に向けての具体的な対策を検討。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	○睡眠パターンを把握し疲労の程度に応じて入眠時間を考慮した声掛けを行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	○家庭菜園・社交ダンス・花札等の楽しみやゴミ捨て・掃除・雪かき等の生活作業を通して役割や自分の存在を大切に張りのある生活に繋がるよう支援している。	○	○今後も役割や楽しみの幅を広げていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○職員が代理で購入してくるのではなく本人と職員共に出掛け本人が選り購入できる場を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	○近所への散歩を心掛けている。 ○必要に応じドライブ等にも出掛けている。	○	○地域のサークル等への参加は現在行っていない。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	○ひとりひとりが行ってみたい普段は行けないところにはなかなか対応できていないが何人かが合同で出掛けられるように心掛けている。	○	○地域のお祭り・花見・温泉一泊等は行っている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○コードレス電話を利用し居室でゆっくり会話出来るよう支援している。 ○手紙は必要に応じ代筆や投函を支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○御家族・知人が気軽に来訪して頂けるように心掛け急な来訪にも対応している。	○	○御家族も一緒に食事出来るよう工夫している。(食事の提供・場所の確保)
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○身体拘束廃止の必要性とその取り組みについて職員が研修会や勉強会に参加している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○日中は開錠し入居様が戸外に行かれる時は安全に配慮し一緒に同行する等している。出来る限り自由な暮らしを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	○職員は入居者様に配慮しながら様子を把握している。夜間は見守りを中心に安全面への配慮をしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	○入居者様の状態に合わせて保管・管理を行なっている。保管する場合も入居者様若しくは御家族の了承を頂くように心掛けている。使用の申し出があった場合はその都度渡して使用して頂いている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○予防への取り組みは当然ながら転倒等起こった場合にはスタッフ間の共通の問題として捉え改善に努めている。	○	○ひやりはっと報告をこまめに行い事故に繋がらないよう検討している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	○内部研修で勉強会を行い急変時・異常の早期発見マニュアルを作成。 ○消防の協力のもと普通救命講習を受講。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○消防の協力を得て避難訓練・避難経路の確認を実施。 ○運営推進会議等で地域への協力も依頼している。	○	○避難場所は隣近所の会社のスペースを提供して頂いている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	○ひとりひとりの日常生活のリズム、食事・水分・排泄等を個別日誌にて毎日チェック・把握し特変があった場合には職員間で共通の認識をする。又、必要に応じて管理者への報告や助言を求める。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	○最新の処方箋を個人ファイルに保管し服薬時には日付・名前を確認し渡している。渡した後の内服の確認も行なう。	○	○薬のセット時・配置時・当日のセット時・服薬時に確認し誤薬がないように努めている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	○排便の有無の確認を毎日行なっている。予防策として十分な水分摂取・牛乳の飲用・適度な運動等を心掛けている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	○食後の歯磨き・義歯の洗浄・うがいを実施している。 ○必要に応じて訪問歯科による口腔ケアの指導を取り入れている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	○食事や水分摂取状況は毎日記録・チェックし、申し送り等で職員で共有している。 ○食事や水分摂取量に応じ入居者様の嗜好に合わせた食物・飲み物を提供している。	○	○必要に応じかかりつけ医や御家族の協力を得ながら支援している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○感染症予防講習へのマニュアル作成、インフルエンザ対策として入居者様・職員の予防接種実施。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○冷蔵庫内の整理及び衛生面での管理を行なっている。 ○調理用具の消毒・殺菌を行なっている。	○	○より衛生的な管理方法に改善していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○玄関入り口にプランター、玄関外庭に花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○食堂・廊下等を花や写真で飾っている。 ○季節にあった装飾等も施している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。			
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○各居室には馴染みの使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ安心して過ごせるように工夫している。	○	○使い慣れた家具や生活用品を入居者様本人が使いやすいように(馴染みの場所)配慮している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	○居室内は換気・温度・湿度を調節している。 ○居間・廊下・トイレ・浴室等にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	○廊下・トイレ・浴室にも手すりがあり段差もなく安全に生活できるよう工夫している。	○	○出来る限り個別に対応出来るよう配慮している。(入居者様の身体機能に合わせて手すりを増設する等)
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	○ひとりひとりわかる力を見極め不安や混乱を防ぎ自信を持ってもらえるよう工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	○ベランダにイスを置きテーブルでお茶を飲んだり畑に芋を植え芋掘りをする等工夫している。		



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている  ②少しずつ増えている  ③あまり増えていない  ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が  ②職員の2/3くらいが  ③職員の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が  ②利用者の2/3くらいが  ③利用者の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が  ②家族等の2/3くらいが  ③家族等の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)